



みなみかぜ

令和3年度学校教育目標

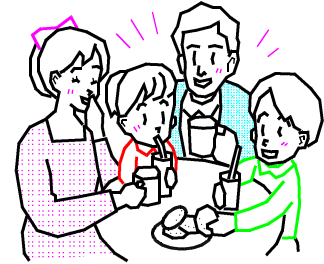
「ふるさとと人を愛し、自らの夢に向かって、力強く歩み続ける子どもの育成」

12月は人権旬間です

12月は人権旬間で、21日(火)には校内人権集会も開かれます。人権感覚につながるお話を昨年度紹介させてもらいましたが、今年も紹介させていただきます。

ある家族の話から

Aさんの家は毎日ケンカばかり。
Bさんの家は、平和で仲良し。



Aさんは不思議に思って、Bさんに聞きました。
「どうしてあなたの家は、そんなに平和なんですか。
ウチは、毎日ケンカばかりですよ」

するとBさんは答えました。
「Aさんの家は、善人が多いんですよ。うちの家はみんなが悪いんですよ。」と
自分の子どもが書いた作文を紹介し、次のような話をしたそうです。

今日、私が学校から帰ると、お母さんが、「お兄ちゃんの机を拭いていて金魚鉢を落として割ってしまった。もっと気をつければよかったのに、お母さんが悪かったわね。」と言いました。

するとお兄ちゃんは、「僕が端っこに置いておいたから、僕が悪かったんだよ。」と、言いました。

でも、私は思い出しました。

「きのうお兄ちゃんが端っこに置いたとき、私は「危ないな。」と思っていたのに、それを言わなかったから、私が悪かったのよ。」と言いました。

夜、帰ってきてそれを聞いたお父さんは、「いや、お父さんが金魚鉢を買うとき、丸い方じゃなくて四角い方にすればよかったなあ。いやー、お父さんが悪かったな。」と言いました。

そしてみんなが笑いました。

うちはいつもこうなんです。うちの家はいつもみんなが悪いのです。

ここで、初めて、「あなたの家は善人が多いんですね」の意味がわかります。Aさんの家は、みんな、「自分が正しい＝自分が善人」だと思っています。だから、「自分は間違っていない、自分が正しい。」とってしまうのです。

きっと、Aさんの家の茶碗がもし割れたら、Aさんの奥さんは「誰がこんなところに茶碗を置いておいたの!? まったくもー。」と言っていたことでしょう。

Bさんの家は、何か問題が起こると相手の気持ちを真っ先に思い浮かべながら、「自分の中に何かいけない部分はなかったかな」と、みんなが自分を振り返り、責任を引き受け合っているのです。

なんだか、素敵な家族だなーと思いませんか。お互いに、相手の事情を想像してわかり合う。しかし、それぞれが卑屈になっているわけではない。お互いにあたたかな気持ちになっている。

これがまさに人権感覚につながるものではないかなと思います。

この話は、家庭だけでなく、学級集団や職員集団にも当てはまる話だと思います。相手を一方的に責めるのではなく、自分はどうすればよかったのかなと冷静に考えて行動できる人になっていかなければと自分自身も振り返りました。

校内人権集会では、子どもたちはどんなことを考え発表するでしょうか。今から楽しみです。